

1年生 <算数科>

現在の分析

<知識及び技能>

- ・計算は、答えが10までの既習のたし算、ひき算を間違えずにできる児童が多い。しかし、まだ計算に慣れず、誤答する児童も数名いる。また、計算カード練習では、計算速度に個人差がある。
- ・単位などの問題文の特定の言葉に気付かなかつたり、きちんと読まなかつたりして、たし算かひき算か混同してしまう児童がいる。
- ・たし算・ひき算の計算の仕方は身に付いている。一方で「○と○で○になる」「○は○と○」といった数の合成・分解についての理解度に個人差がある。また、繰り上がり・繰り下がりに必要な10の合成・分解もスラスラ言える児童とそうでない児童といったように、個人差がある。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・問題文を読み取り、具体的に場面をイメージして立式することが難しい児童が数名いる。言葉だけでは、式の意味を十分に理解できていないので、個別に支援する手立てが必要である。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・たし算やひき算が好きで、計算カードの練習に進んで取り組む児童が多い。
- ・教科書や計算スキルの問題を意欲的に取り組み、関心を示す児童が多い。

重点課題

<知識及び技能>

- ・たし算・ひき算の練習を通して、繰り上がりのあるたし算・繰り下がりのあるひき算に備えること。
- ・数や計算について、解き方の基本型を基にノートに解いたり、解いた結果を読んだりすること。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・問題文を読み、どんな内容かを確認し、「あわせて」や「のこりは」といったキーワードになる言葉を捉えること。
- ・具体的な場面が思い浮かべ、絵や図を活用したり、計算ブロックを操作したりしながら、たし算で解くか、ひき算で解くのかを考えること。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・誤答を怖がらず、自分の意見に自信をもち、進んで挙手し発言すること。
- ・自分の考えを伝える習慣を身に付けさせること。

授業改善策

<知識及び技能>

- ・数や計算に関して全員が十分に理解できるよう、スモールステップでの授業展開を行う。
- ・個別に支援が必要な児童には、ヒントを出したり、一緒に考えたりと個別指導をする。
- ・数の合成・分解（特に10まで）を、念頭で正しくできるよう反復練習の時間を適時取る。
- ・「10までのたし算・ひき算」で、正しい答えが出せるまで繰り返し練習をしたり、数の合成・分解を意識させたりさせながら、たし算やひき算の習熟を図る。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・たし算かひき算かを明確に捉えさせるために、図や計算ブロックを動かしながら立式したり、日常生活に結び付けて考えたりする活動を、授業の中で多く取り入れていく。
- ・問題文を、図や半具体物に置き換えて考える習慣を身に付けさせる。また、問題文の内容をおさえ、分かっていることや問われていることの文に着目させ、そこから考える指導をする。
- ・教材提示装置等を使い、ノート指導を徹底する。見やすいノート作りをさせることで、自分の考えをまとめられるようにする。振り返りもノートに書かせ、自己評価の習慣を身に付けさせる。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・発表の場面では「一人で説明する」「隣の席の友達に説明する」「みんなの前で説明する」といった、説明の場面を多くし、自分の考えに自信がもてるようにする。
- ・「間違ってもいい」という雰囲気作りをし、多くの児童が手を挙げられるようにする。
- ・机間指導を充実させ、一人一人の意欲を引き出す。

2年生 <算数科>

現在の分析

<知識及び技能>

- ・どの単元も十分に理解している児童がほとんどだが、一部には基本が定着しておらず、差が見られる。
- ・計算においては、おおよその児童が理解できている。
- ・「時刻と時間」における知識、理解が十分ではない。
- ・点と点を結ぶ直線を引く時に、まっすぐで正しい長さの直線を引くことができない児童がいる。
- ・ものさしを使った長さの読み取りに時間がかかる。
- ・ $1\text{ cm}=10\text{ mm}$ 、 $1\text{ L}=1000\text{ mL}$ 等の、単位換算についての理解が不十分な児童がいる。
- ・長さやかさの量感が捉えられない児童が多い。

<思考力、判断力、表現力>

- ・問題文を正しく読んで立式することや、問題文を作ることができない児童がいる。
- ・問題文の、目先の情報ばかりに注目し、全体を捉えられない場合がある。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・教科書やワークテストの発展的な問題にも、積極的に取り組む児童が多い。

重点課題

<知識及び技能>

- ・「時刻と時間」の学習の理解を深めること。
- ・単位換算の理解を深めること。
- ・ mm などの細かい長さを測ったり表現したりする技能の向上。
- ・量感の育成。

<思考力、判断力、表現力>

- ・文章題の内容を正しく読み取れるようにすること。
- ・文章題の内容から、立式できるようにすること。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・多くの児童が関心を持って学習に取り組める、活動内容を充実させること。

授業改善策

<知識及び技能>

- ・「時刻と時間」については、知識を定着するために、日常生活の中で、「あと何分？」等と、児童が時間について思考できる場면을意図的に組み込む。教室の時計を手掛かりにする。
- ・「長さ」や「水のかさ」などの量的な単位については、授業以外でも意識させ、意図的に単体量（ $1\text{ cm}\cdot 1\text{ mm}\cdot 1\text{ dL}\cdot 1\text{ L}$ ）がどの程度のものなのかを、身近な物を使って確認する。また、測定の活動を重視し、量感を養いながら理解を深められるようにする。
- ・朝のスキルアップや授業において、計算の反復練習や長さを測ったりかいたりする時間を確保し、計算力・技能を高めるようにする。

<思考力、判断力、表現力>

- ・たし算やひき算の場面をよりイメージできるように、ICT等を活用して、問題場면을視覚的に理解させる。
- ・図や言葉を用いて、自分の考えを書いたり説明したりする機会を多く設定する。
- ・文章問題では、増える、減る、比べるなどの違いを感じ取らせ、「なくなると」「どちらがどれだけ」等のキーワードに着目させ、イメージを十分に膨らませ、そこから考え立式できるように支援する。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・児童が「分かる」「楽しい」と感じられる授業を展開する。そのために、導入で児童が取り組みたいと思えるように、提示方法やICTを活用し、興味関心を高められるようにする。

3年生 <算数科>

現在の分析

<知識及び技能>

- ・長さの単位換算や2学年で学習した図形の名称等、学習を終えて間が空くと忘れてしまっていて、定着しない事項がある。
- ・時間の求め方が身に付いていない児童がいる。
- ・除法について8割定着した。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・四則計算は好きでも、計算の概念を理解していなかったり、計算間違いをしたりする児童が多い。
- ・答えが合っていれば正解という意識が強く、式の意味を理解しきれていない児童がいる。
- ・自分の考えを図や文で表すことに苦手意識をもっている児童が多い。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・少人数のクラス編成では、作業や理解の速さがそろい、発言や質問により積極的になる傾向が見られる。

重点課題

<知識及び理解>

- ・10000までの数・小数・分数のしくみや2位数×2位数、あまりのある除法、重さや長い長さの単位、三角形の定義や弁別など、基礎的事項の定着。
- ・定規やコンパスの使い方を身に付けて正確に図形を描く。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・自分の考えを式や図で表し説明することができる。
- ・様々な考えの中から、よりよい考えを価値付けする。
- ・題意をつかみ、「分かっていること」「求めること」を整理したり、図に表したりする。
- ・計算を工夫したり、検算をしたりして正確に計算することができる。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・前回の学習との違いを明確に、既習事項を生かして問題解決をする。

授業改善策

<知識及び理解>

- ・授業やスキルアップ学習の時間において反復練習をする時間を保障し、計算ドリルを活用して家庭学習を習慣付ける。
- ・スキルアップ学習。家庭学習のドリル・単元ごとのテスト・テスト直し学期末のまとめテスト等、基本的な事項については繰り返し確認し、定着を図る。
- ・単元ごとに、土曜補習・水曜補習を行い、基礎的な学力の定着を図る。
- ・タブレットのドリルパークやタブレットドリルを活用して、問題に触れる時間を増やす。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・児童が多様な考えをもち、対話的な活動によってよりよい考えを求めていくような授業展開を工夫する。
- ・ICTを活用し、友達ノートを書画カメラで投影したり、さまざまな考えの一覧を映し出したりする。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・児童が主体的に取り組めるような単元計画を工夫する。
- ・課題の中に、「考え方を伝える」など、必然的に思考力・判断力・表現力等に児童の意識が向くような言葉を加える。
- ・ICTを活用し、視覚に訴えるような活動を取り入れる。
- ・既習事項や算数の用語を掲示する。

4年生 〈算数科〉

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・設問全体の校内平均正答率は78.4%であり、全国正答率73.0%より上回る結果となった。
- ・一方で、長さ・重さなどは正答率が総じて低めで、特定領域の理解が十分ではない児童がいると分かった。特に、単位換算に課題が見られる。
- ・筆算を、十分に理解できていない児童が見られる。
- ・文章問題の読解能力に、総じて課題が見られる。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・数量の処理や計算が、正確にできるようにする。
- ・定規・分度器やコンパスを正しく使えるよう、さらに習熟させる。
- ・重さを推察して、適切な単位を使えるようにする。
- ・知識・理解の定着に個人差があるので、選択コースごとに、より相応しい指導法を考える。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・問題文を正しく読み取り、立式できるようにする。
- ・ノート等で既習内容を確認する習慣付けを促すことで、応用的な問題も解けるようにする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・意欲的な児童が多い一方で個人差があり、文章問題等、応用的な課題に対して消極的になってしまう児童がいる。
- ・少数だが、選択問題でも、解答の空白欄が目立つ児童がいる。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・既習内容を確認しながら取り組むことで、定着を確実にする。
- ・図形の処理において、基本的な作図技能の、日常的な活用機会を確保する。グラフ作成等、教科横断的に定規やコンパスの使用機会を増やす。
- ・日常生活の中でも基準となる重さや量、単位を意識する機会を増やして量感を育てる。また、適切な単位を使用することができるよう繰り返し指導を行う。
- ・習熟度別学習の時間を有効に使い、個に応じた課題設定や指導に、さらに力を入れる。
- ・習熟がより必要な児童に対しては、補習教室の機会を活用し、定着を図る。
- ・分数の概念が身に付くように、具体物から抽象化できるようにスモールステップを踏んで指導する。
- ・身近にある物の重さなどの量感をつかむために、十分に予想させ、計測する活動を取り入れる。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・文章問題に多く取り組ませる。
- ・キーワードに線を引くなどして問題文を正しく読み取らせ、既習の学習を基に考えて解く機会を増やす。
- ・絵図や線分図などを活用しながら、自分の考えを話したり友達のを考え方を聞いたりすることを重視し、自らの力で筋道を立てて考えることにつなげていく。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・身近な問題に置き換えて課題を提示するなど、課題提示を工夫する。
- ・応用的な課題に対しても具体物や身近な教材・教具を使って興味をもたせ、児童が主体的に取り組めるようにする。

5年生 <算数科>

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・正答率は領域別、観点別ともに、ほぼすべて目標値を上回っている。
- ・達成率（領域別、観点別経年比較）においても、平均正答率がすべて目標値を上回っている。
- ・領域別に分析する区分においても、正答率はすべて目標値を上回っている。

重点課題

<知識及び技能>

- ・少数・分数の概念を確認し、数の大きさの比較を確実にできるようにする。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・言葉、数、図、式、数直線などを使って、自分の考えまとめ、適切に表現できるようにする。
- ・帯分数、仮分数、真分数、整数の大小を並べて比較できるようにする。
- ・小数のわり算の筆算で、商や余りの大きさを考え正しく求められるようにする。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・問題文や資料、数値を正確に読み取り、いろいろな考え方で課題を解決しようとする。

授業改善策

<知識及び技能>

- ・用語、単位や公式などを、図を使ったり活動を通して理解させたりするとともに、振り返りカードを書くことで、理解の定着を図る。
- ・学習した内容を教室に掲示し、基礎基本の定着を確実にする。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・数式、図、数直線を用いて考え、友達の考えから考えを広げる。
- ・ノート書き方を指導して、考えを分かりやすく整理してまとめる時間を確保する。
- ・朝学習や家庭学習で、小数や分数の計算練習の時間を確保し、反復練習をする。
- ・小数のわり算の計算が苦手な児童には、答えの見当をつけさせ、筆算を丁寧に書いて計算を進めるようにする。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・デジタル教科書を活用し、合同な図形等についての理解を深める。
- ・日常場面に関連付けたり具体物を使ったりして、学習課題を明確にして、学ぶ意欲を高める。
- ・スキルアップタイム（朝学習時間）に基礎的な計算練習を行い、基礎計算力を高める。
- ・様々な考えを取り上げ、友達の考えから学ぶ場を設ける。友達の説明や考えを聞き、自分の考えと比較し、深い学びへとつなげていく。

6年生 <算数科>

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・ 正答率は領域別、観点別ともに、すべて目標値を上回っている。
- ・ 達成率(領域別、観点別経年比較)においても、平均正答率がすべて目標値を上回っている。
- ・ 領域別に分析する区分においても、正答率はすべて目標値を上回っている。

重点課題

<知識及び技能>

- ・ 分数の乗法及び除法の計算ができる。
- ・ 円周の長さを求める。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・ 言葉、数、図、式、数直線等を使って適切に表現したり、考えを交流して広げたりする。
- ・ 立体の体積を正確に求め、式の意味の説明をする。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・ 問題文や資料から、分かっていることや問われていることを正確に読み取ろうとする。

授業改善策

<知識及び技能>

- ・ スキルアップタイム(朝学習時間)に基礎的な計算練習を行い、基礎計算力を伸ばす。
- ・ 算数少人数クラスでの、それぞれのレベルに合った発問や問題の選定を行う。
- ・ 朝学習や家庭学習で、小数や分数の計算練習の時間を確保し、反復練習をする。

<思考力、判断力、表現力>

- ・ 「500円の20%引きの商品の値段は…」 「ケチャップとウスターソースを3:2で混ぜると…」等、生活の中でも、数量や単位について意識させ量感を育てていく。
- ・ 課題解決にあたり、様々な考えを全体で取り上げ、友達考えから学ぶ場を設定する。友達考えを聞き、自分の考えと比較して共通点を見出したり、相違点について考えたりしながら、理解を深めていく。
- ・ ノートの書き方を指導して、考えを分かりやすく整理してまとめ、振り返る時間を確保する。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・ デジタル教科書を活用し、学習課題を把握しやすくする。
- ・ 日常場面に関連付けたり具体物を使ったりして、学ぶ意欲を高める。